

人間—生活環境系学会
屋外熱環境デザイン研究委員会
第1回研究交流会報告

屋外熱環境デザイン研究委員会の活動の一環として、橋本剛委員の主催で第1回研究交流会を下記の要領で実施した。

趣旨

古い町並みや農村集落などの伝統的景観は、先人達が長い年月をかけて構築してきた気候風土と調和するための文化の結晶とも言え、これからの屋外熱環境デザインを考える上で学ぶべきものが多く含まれている。そこで第1回は「気候風土・伝統的景観と屋外熱環境デザイン」をテーマに掲げ、伝統的景観の熱環境的な意義を気候風土との調和という観点から再考するとともに、その保全に向けた取り組み・考え方を学ぶことを目的として開催した。

◆ 1日目 研究座談会

日時：2006年8月7日13時～17時

会場：筑波大学芸術学群学系棟 B203

参加人数：16名（会員7名、非会員5名、学生4名）

1. 開会挨拶・趣旨説明

委員長 長野和雄（島根大学）

長野委員長より当研究委員会の設置の経緯と趣旨説明および今後の活動計画の紹介がなされた。

2. 気候観測体験会

説明：橋本 剛（筑波大学）

橋本委員より気候観測に使用する機器の説明、時刻補正の方法などについて説明が行われた。その後、筑波大学キャンパス内において3班に分かれ、アスマン通風乾湿計、ピラム式風向風速計を用いた気候観測を行った。

日射遮蔽物のない芝生広場と赤松に覆われた緑陰で観測を行い、初めて体験した参加者からは、「気候観測の手法がよくわかった」、「雑木林の涼しさをあらためて感じる事ができた」などの感想があった。

実測において初対面の参加者どうしが互いに交流

できたことで、その後行ったフリーディスカッションの発言が行いやすく、終始リラックスしたムードの中で研究交流会を実施することができた。



写真1 気候観測体験会の様子

3. 事例報告

（1） 風と緑の屋外熱環境デザイン

橋本 剛（筑波大学）

つくば市洞下集落において、屋敷林が集落内の微気候形成に及ぼす影響を把握する目的で実施された気候観測結果について報告された。連続した屋敷林による防風効果が明確に現れるなどの知見が紹介された。また近年の開発により、防風林の連続性が途切れた部分では西側から吹き込む季節風が観察されるなど、気候景観ならびに伝統的に形成されてきた微気候が消えつつあることも報告された。あわせて、茨城県南地域（利根川～筑波山麓）における生垣によるさまざまな形態の防風林についても紹介された。

（2） 伝統的景観に形成される熱環境

宇野勇治（愛知産業大学）

旧東海道の「藤川の松並木」、「御油の松並木」において実施した気候観測、国道1号線周辺の熱環境の実測結果などの報告がなされた。夏季の晴天日において、日射遮蔽物のない路上は極めて高温となる場合においても、松並木の範囲内においては熱射病の危険性の少ない歩行可能な環境に調整されているなどの知見が示された。また、旧東海道における松並木など景観に関する写真・言説など資料の紹介がなされた。景観や環境の観点からも植栽を活かした街路計画の必要性が指摘された。

4. 招待講演

文化的景観の保全を考える-白川村荻町を事例に

黒田乃生（筑波大学）

筑波大学大学院世界文化遺産学専攻の黒田乃生先生を招き、合掌造りの家並みで知られる、白川村荻町伝統的建造物群保存地区の自然景観、人文的景観に関して、世界遺産・文化財保存の観点からご講演いただいた。集落周辺における山林の植栽内容の変遷と現状、道路や産業の変遷、合掌民家を含む景観保存の問題、維持管理にかかわる課題などについて紹介された。特に伝統集落の景観構成要素とその維持管理における規制・基準に関するガイドラインや保全の現状について具体的な事例を挙げながら解説がなされた。さらに、今後の文化的景観保全の考え方に対する問題提起がなされ、次のフリーディスカッションへと展開された。



写真2 招待講演の様子

5. フリーディスカッション

司会：橋本 剛（筑波大学）

先の事例報告および招待講演をふまえ、発表者と参加者によるフリーディスカッションを行った。座談会的な雰囲気の中、都市における緑地のあり方や維持管理の問題、伝統的な景観を保全すべき地域における生活と観光の共生についてなど、様々な議題があげられ、気候風土と密接な関係を持つ伝統景観の今日的意義や、今後の保全・継承に向けた課題などについて有意義な議論が展開された。そして、伝統的景観に対する屋外熱環境デザインという観点からのアプローチの重要性・可能性が確認された。

◆ 2日目 見学会

日時：2006年8月8日9時～16時

参加人数：8名（会員5名、非会員1名、学生2名）

筑波研究学園都市の現代建築と周辺集落の気候景観を見学した。見学先は以下の通り。見学先では地域の居住者とコミュニケーションをとるなど、伝統的な微気候形成手法と居住者の生活観をあわせて体感することができた。

見学ルート：つくばセンタービル（磯崎新）[集合] →つくば南3駐車場（伊東豊雄）→つくば市立竹園西小学校（原広司）→つくばカピオ（谷口吉生）→カスミつくばセンター（マイケル・グレイブス）→松見公園展望塔（菊竹清訓）→金田集落→玉取集落→若森集落→洞下集落→筑波山神社→神郡集落→つくば駅 [解散]

※（ ）内は設計者



写真3 見学した建物（つくばカピオ）



写真4 見学会の様子（つくば市金田集落西坪地区）

報告：宇野勇治